

【漁況】

[マアジ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しましたが、再び減少傾向に転じ、平成24年も13万4千トンと低調に推移しました。

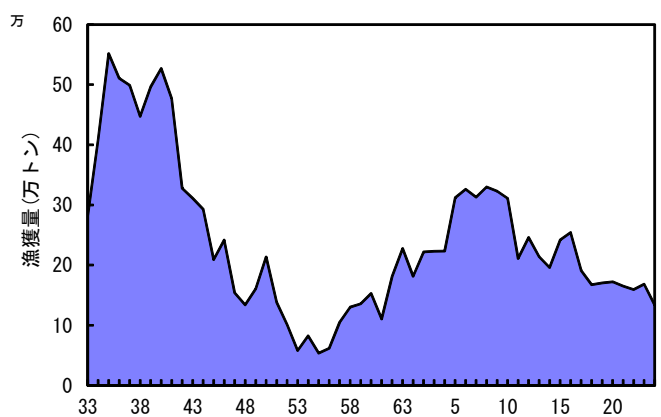


図 全国のマアジ漁獲量の推移

年

2. 平成 26 年 10 ~ 12 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、10月に串木野沖でマアジ仔（0歳魚：平成26年生まれ）主体の漁獲がありましたが、他の月は漁場が形成されませんでした。

薩南海域では、10月に島間沖でマアジ中（2歳魚：平成24年生まれ）主体の漁獲がありましたが、他の月は漁場が形成されませんでした。

4港計のまき網では、マアジ仔主体に129トンの水揚げで、前年の26%及び平年の24%と低調に推移しました。

3. 平成 27 年 1 ~ 3 月期の見とおし

漁獲の主体は、マアジ仔・豆（1歳魚：平成26年生まれ）で、マアジ小・中（1・2歳魚：平成26・25年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年・平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

漁獲主体となるマアジ1歳魚は、10月以降非常に低調に推移しており、前年・平年を下回ると考えられます。また、2歳魚以上も10月以降低調に推移していることから、全体としては、前年・平年を下回ると考えられます。

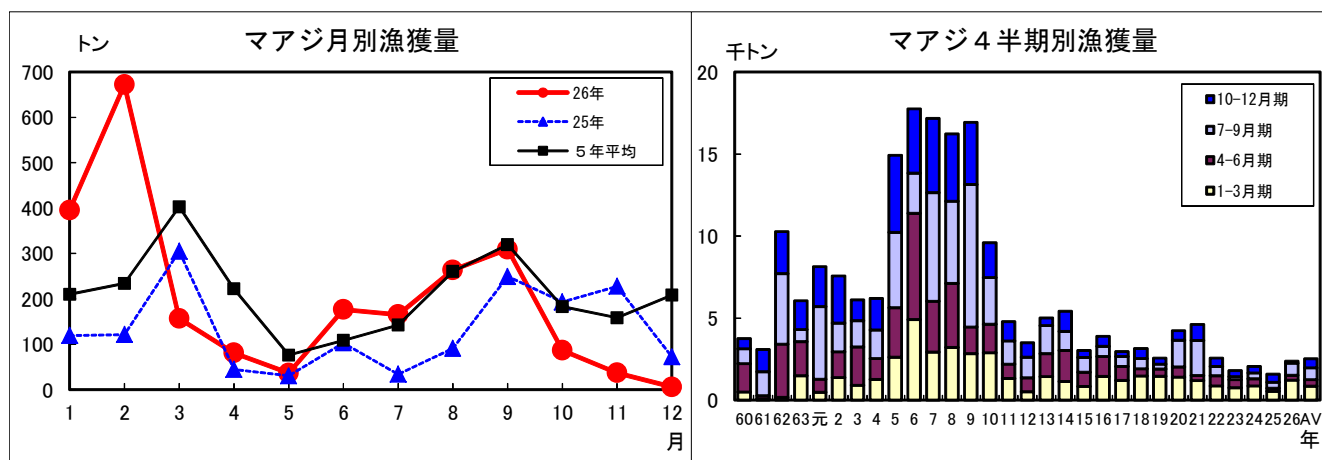


図 マアジまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成21～25年）の平均値(AV)、平成26年12月24日までの水揚量を使用

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンにピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少しましたが、平成5年から増加に転じ平成9年には84万9千トンまで増加しました。その後再び減少し、平成14年は28万トンになりました。平成17年・18年は再び増加しましたが、平成19年以降減少傾向にあり、平成24年は44万3千トンとなりました。

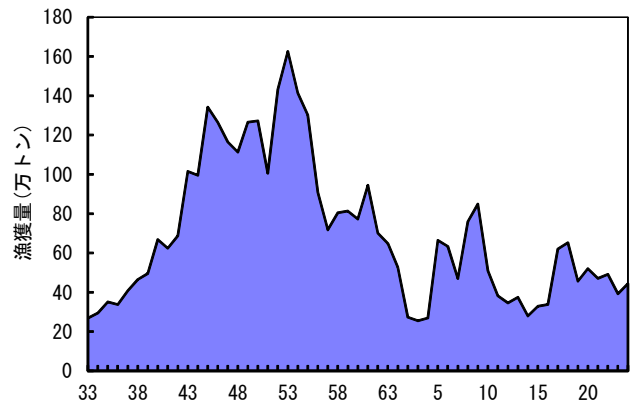


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

2. 平成26年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、漁場は形成されませんでした。

薩南海域では、種子島東、種子島南及び宇治でゴマサバ中（2・3歳魚：平成24・23年生まれ）の散発的な漁獲がありましたが、漁場は形成されませんでした。

4港計のまき網では、ゴマサバ中、小（1歳魚：平成25年生まれ）主体に822トンの水揚げで、前年の72%及び平年の25%と低調に推移しました。

3. 平成27年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は、ゴマサバ中小、中（2・3歳魚：平成25・24年生まれ）で小（1歳魚：平成26年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年・平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

漁獲の主体となるゴマサバ2・3歳魚は、10・11月にややまとまった漁獲がみられましたが、12月には低調となりました。また、1歳魚の漁獲もかなり低調に推移していることから、全体としては、前年・平年を下回ると考えられます。

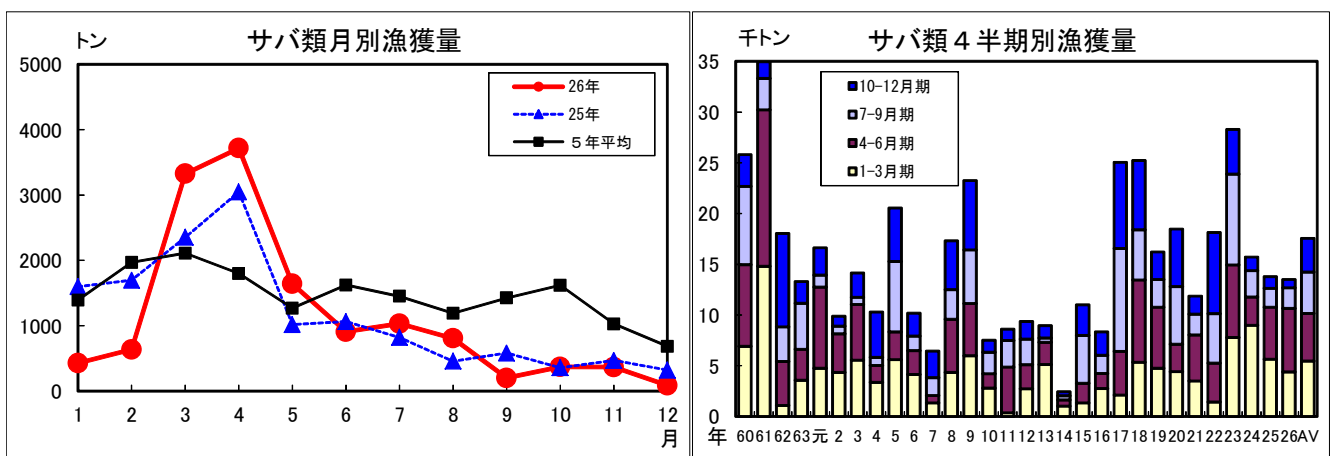


図 サバ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成21～25年）の平均値(AV)、平成26年12月24日までの水揚げ量を使用

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

しかし、平成元年から全国的に漁獲量は減少を続け、平成17年には3万トンとなりました。

平成23年は18万トンと平成14年以降10年ぶりに10万トンを超える漁獲があり、平成24年も17万トンの漁獲がありました。

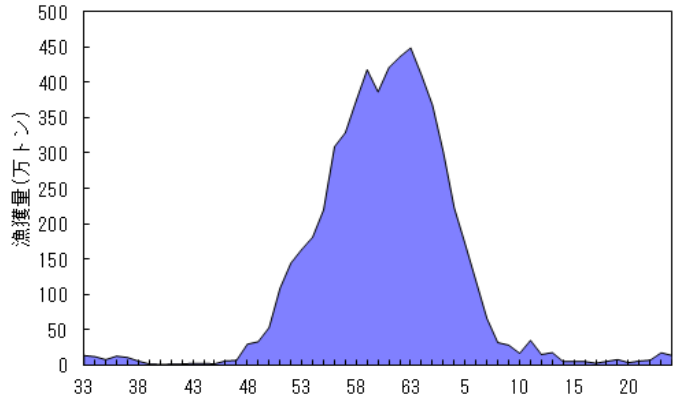


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

2. 平成 26 年 10 ~ 12 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺、天草沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、野間池で漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島で漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、小羽（0 歳魚：平成 26 年生まれ）主体に 254 トンの水揚げで前年の 33 %、平年の 93 %でした。

北薩海域の棒受網は、45 トンの水揚げで前年の 143 %、平年の 101 %でした。

3. 平成 27 年 1 ~ 3 月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽（1 歳魚：平成 26 年生まれ）でしょう。

来遊量は前年を下回り、平年並でしょう。

（根 拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期漁獲の主体となる 1 歳魚（平成 26 年生まれ）は、平成 26 年 5 月以降、0 歳魚として前年を下回る漁獲が続いていることから、来遊量は前年を下回り、平年並になると考えられます。

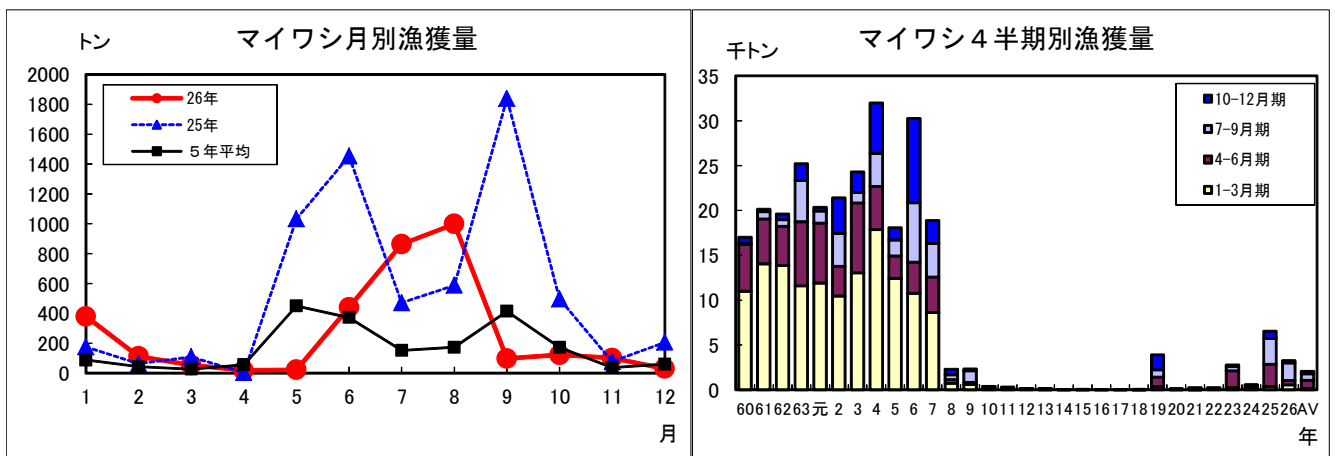


図 マイワシまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 21 ~ 25 年）の平均値（AV），平成 26 年 12 月 24 日までの水揚げ量を使用

[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代から60年代にかけて3～5万トン前後で推移しました。

その後、増減を繰り返しながら増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりましたが、翌年以降減少傾向に転じ、平成12年は2万4千トンとなりました。

平成15年以降は再度増加傾向に転じ、平成23年には8万5千トンと昭和33年以降最高の漁獲量となり、平成24年も8万1千トンと好調に推移しました。

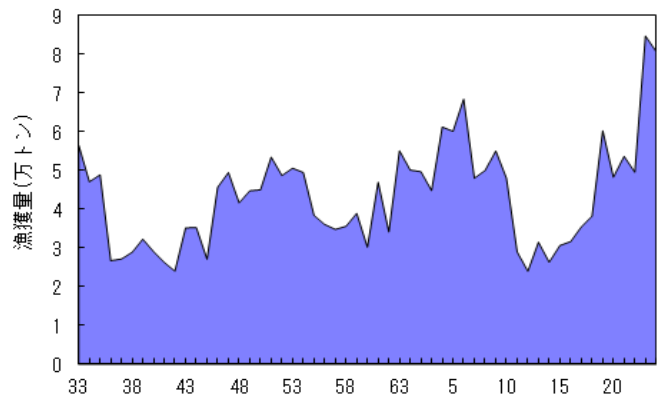


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

年

2. 平成26年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺、天草沖に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、野間池に漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、小羽（0歳魚：平成26年生まれ）主体に1,272トンの水揚げがあり、前年の45%、平年の53%でした。

北薩海域の棒受網では、537トンの水揚げで前年の120%、平年の159%でした。

3. 平成27年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽（1歳魚：平成26年生まれ）でしょう。

来遊量は前年並で、平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期漁獲の主体となる1歳魚（平成26年生まれ）は、平成26年4月以降、0歳魚として前年を下回る漁獲が続いていますが、棒受網では、前年並みの漁獲が見られており、今期も1歳魚として、一定量の来遊が見込まれることから、来遊量は、近年ではやや低調であった前年並にはなるものの、近年の好漁により高い水準にある平年は下回ると考えられます。

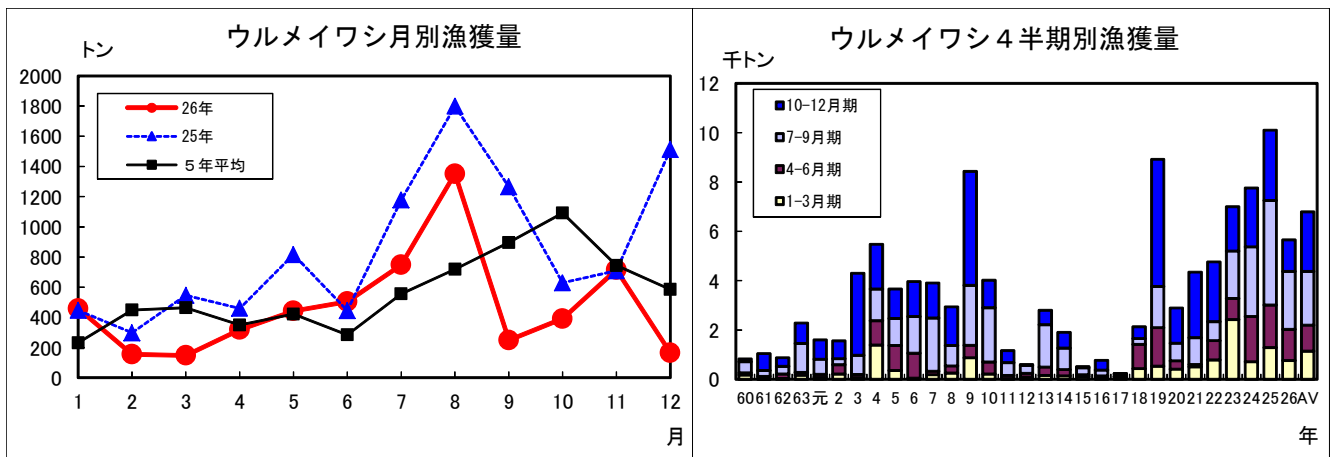


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成21～25年）の平均値（AV）、平成26年12月24日までの水揚げ量を使用

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。

その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。

昭和63年以降は大きく増減を繰り返し、平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、平成24年は24万5千トンとなりました。

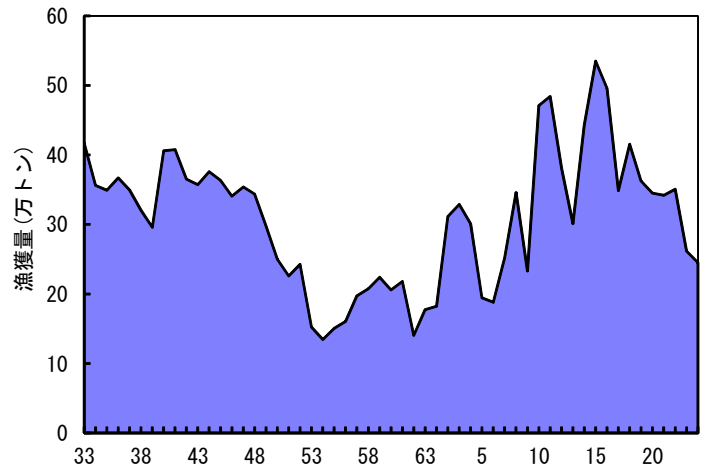


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 平成26年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、主に甑島周辺、天草沖に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、野間池に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、大羽（平成25年生まれ）主体に5,716トンの水揚げがあり、前年の2,489%、平年の3,810%でした。

北薩海域の棒受網では、長島に漁場が形成され、61トンの水揚げがあり、前年の139%、平年の161%でした。

3. 平成27年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は中羽（平成26年生まれ）、大羽（平成25、26年生まれ）でしょう。

来遊量は前年・平年を上回ると考えられます。

（根拠）

西薩海域の前年の秋季～本年の夏季の BATCH 網漁は低調であったが、まき網による直近の漁況は前年、平年を大きく上回り非常に好調であることから、前年、平年を上回る来遊は見込めると考えられます。

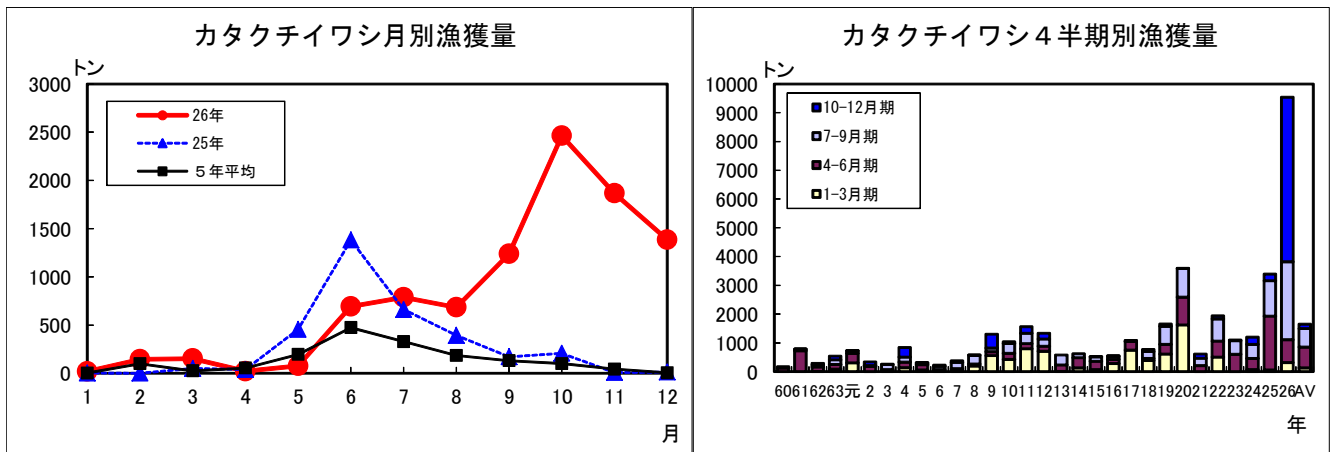


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成21～25年）の平均値（AV）、平成26年12月24日までの水揚量を使用

[シラス]

1. 経年経過及び平成 26 年 10～11 月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、平成 25 年は 1,438 トンとなりました。

志布志湾海域では平成 12 年の 1,407 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14 年は 396 トンまで減少しました。その後平成 15 年以降は増加傾向を示し、平成 19 年は 2,374 トンと好調に推移しましたが、その後は減少傾向を示し、平成 25 年は 1,426 トンとなりました。

西薩海域の漁況は、10 月はほとんど水揚げがありませんでしたが、11 月は前年を大きく上回る水揚げがあったため、カタクチシラス主体に 228 トンの水揚げで、前年の 433 %、平年の 72 %でした。

志布志湾海域の漁況は、カタクチシラス主体に 203 トンの水揚げで、前年の 51 %、平年の 87 %でした。

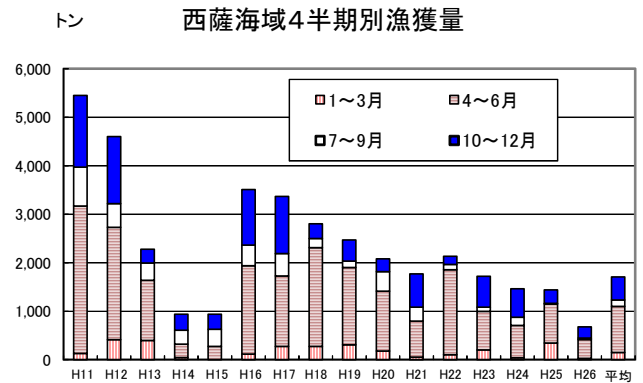
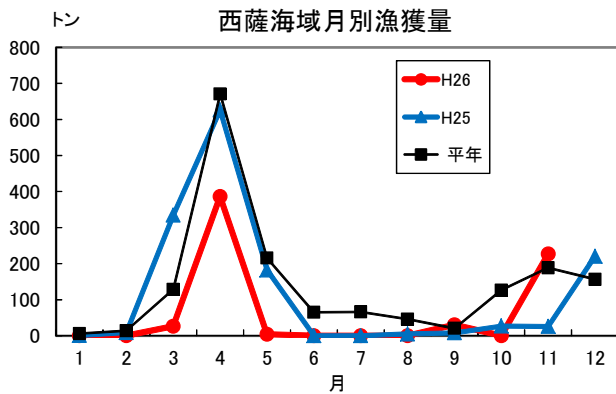
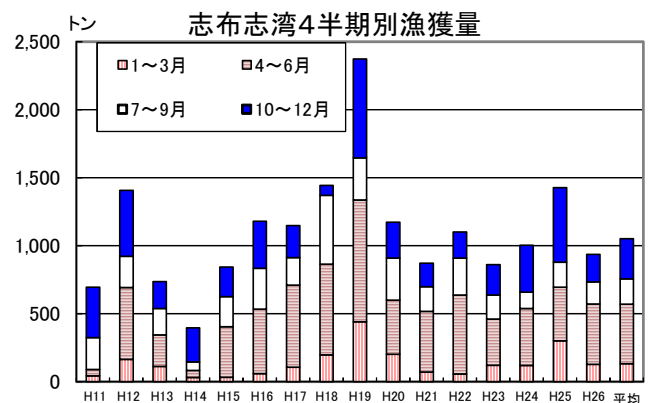
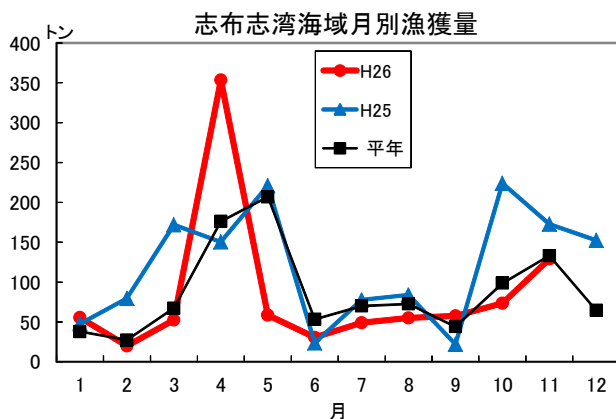


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)



志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去 5 年(平成 21～25 年)の平均値(AV)、平成 26 年 11 月 30 日までの水揚量を使用

[イワシ類参考資料]

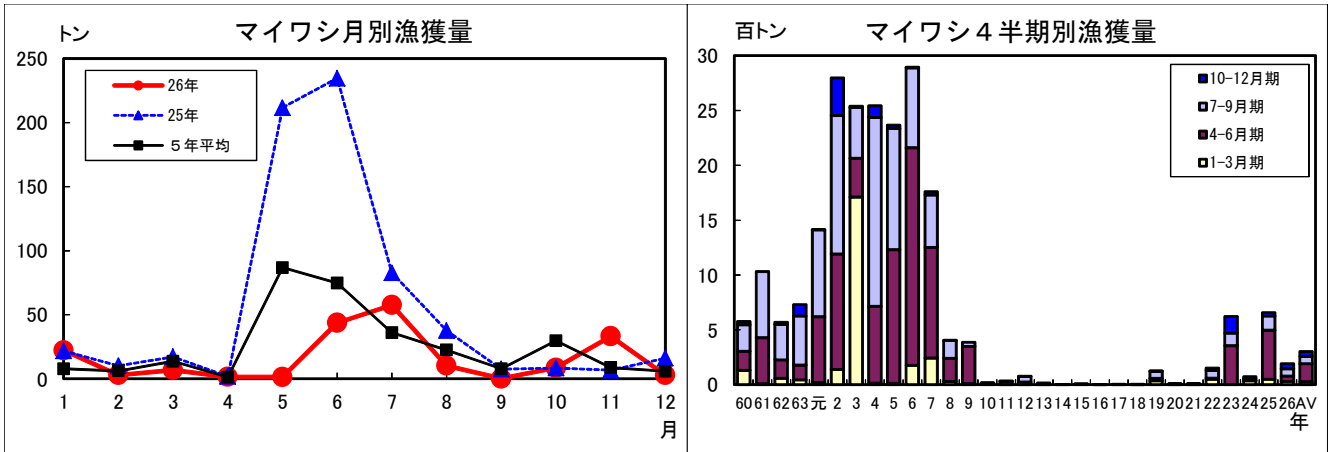


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

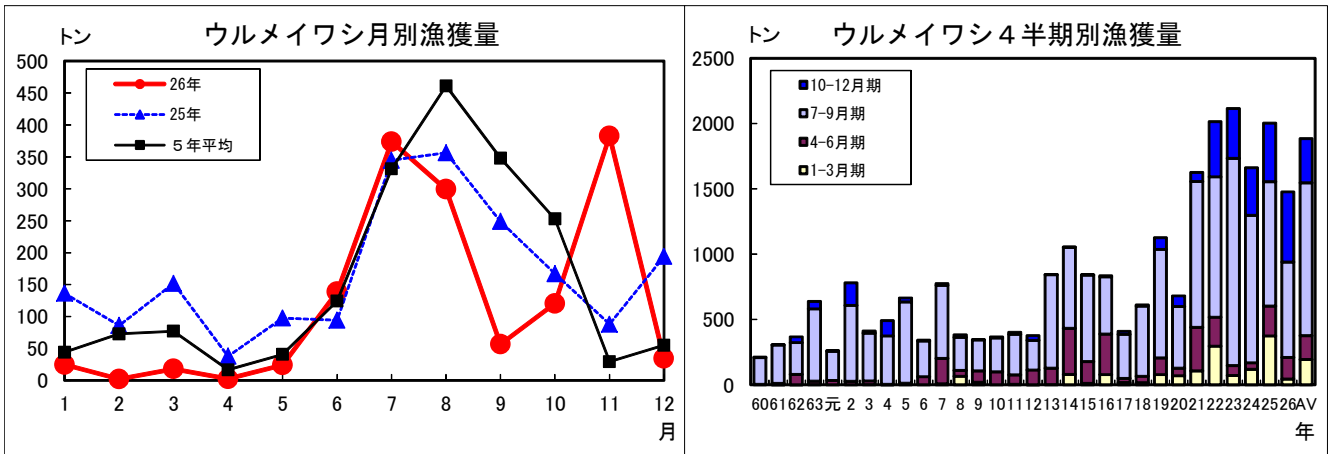


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

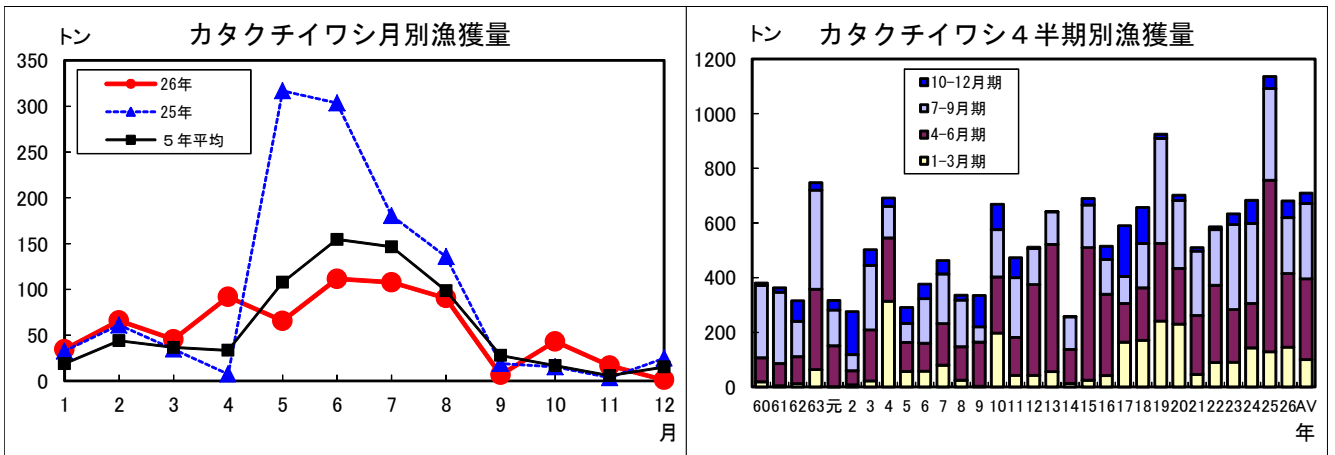


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年(平成21~25年)の平均値(AV),平成26年12月24日までの水揚量を使用

[参考：漁況経過のみ記載]

〈ムロアジ類（クサヤモロ，モロ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年変化及び平成26年10～12月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トン进行ピークに急減し、平成6年以降は、1,500トンから4,500トンの間での推移しており、平成25年は3,512トンとなりました。

平成26年10～12月は、薩南海域では、10月に宇治，種子島南，屋久島南東でクサヤモロ豆・小，11月に島間沖でクサヤモロ小，12月に種子島東でクサヤモロ小の漁場が形成されましたが、期全体で961トンの水揚げで、前年の49%及び平年の65%と低調に推移しました。

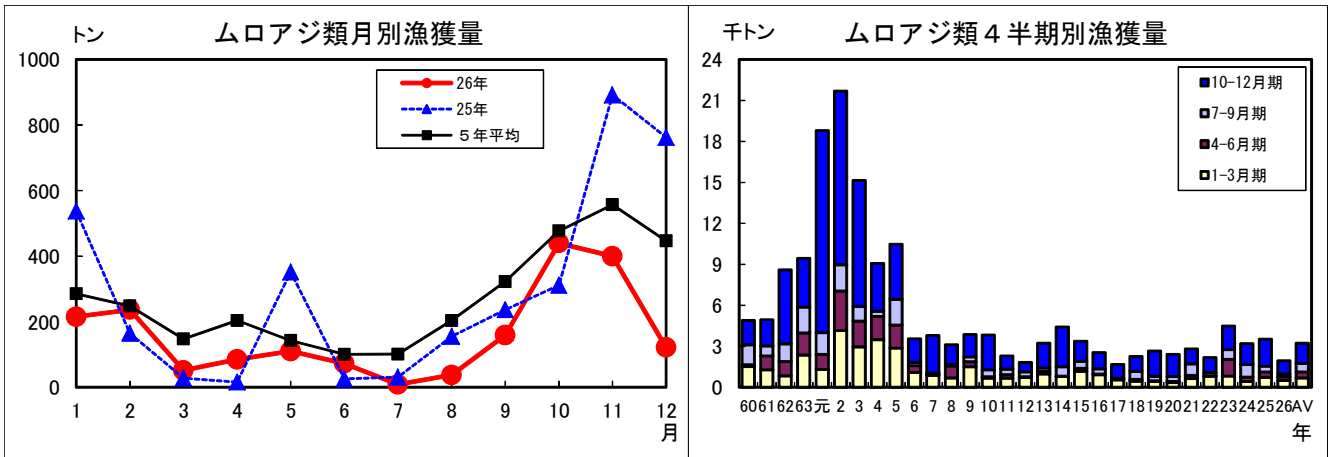


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成21～25年）の平均値(AV)，平成26年12月24日までの水揚量を使用

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年変化及び平成26年10～12月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トン进行ピークに一旦減少し、平成7年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成20年は2,291トンと一旦増加しましたが、再び減少傾向で平成25年は1,622トンとなりました。

平成26年10～12月は、薩南海域では、島間沖で中主体の漁場が散発的に形成されましたが、期全体で170トンの水揚げで前年の18%及び平年の39%と低調に推移しました。

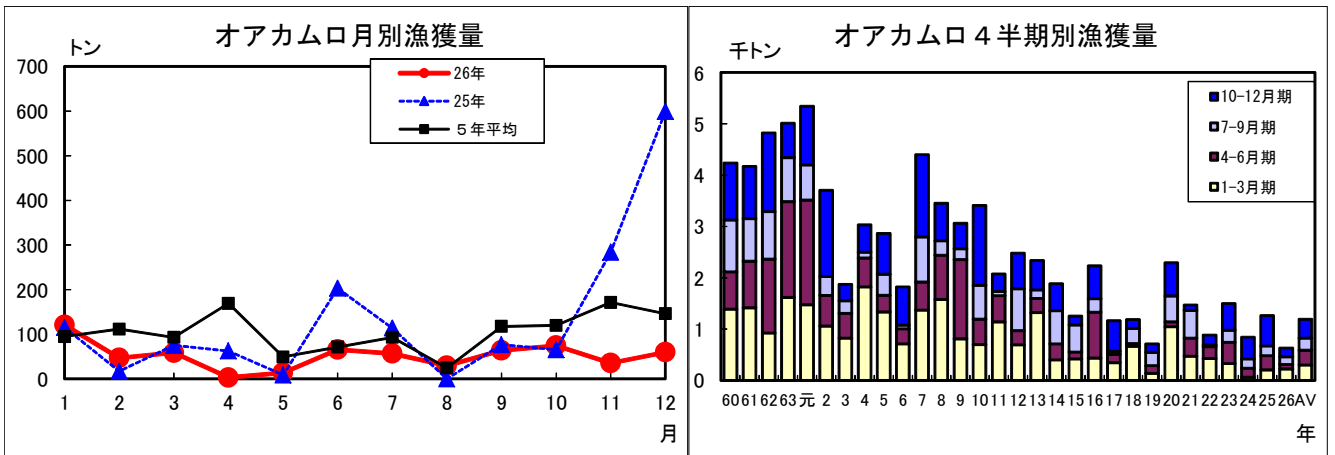


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成21～25年）の平均値(AV)，平成26年12月24日までの水揚量を使用

〈マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年変化及び平成26年10～12月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、昭和62年から平成元年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、平成12年から15年に再度ピークを迎え15年には3,150トンと最高を記録しましたが、平成16年以降は低調に推移し、21年は過去最低の94トンとなりました。

22, 23年はやや増加したものの依然低調で、25年は392トンとなりました。

平成26年10～12月は、散発的な漁獲に留まり、期全体で59トンの水揚げで、前年の25%及び平年の51%と低調に推移しました。

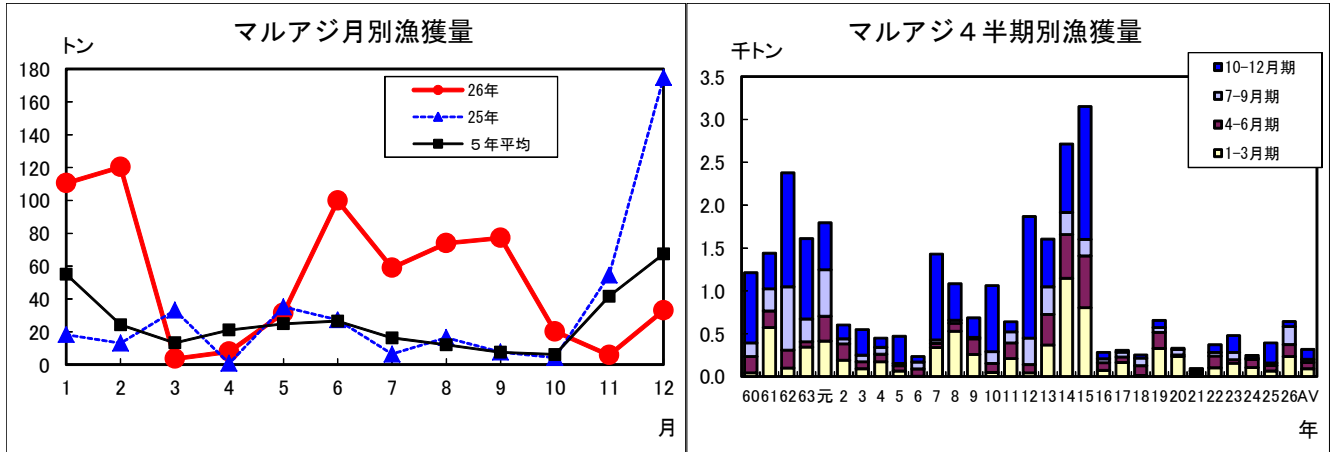


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成21～25年）の平均値(AV)、平成26年12月24日までの水揚げ量を使用